

20古地域第2133号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

福島県古殿町長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

本町の道路行政の推進につきましては、日ごろよりご指導、ご協力をいただき感謝申し上げます。

このたび、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼いただきました標記について、別紙のとおり提出しますので、よろしくお願い申し上げます。

（事務担当 地域整備課 TEL 0247-53-4612 FAX 0247-53-3154）

○地方における道路整備状況の公正な把握

道路は地方で生活する私たちにとりましては、最も重要な社会資本の一つであることは言うまでもありません。日常生活は基より、産業や観光振興等の地域活性化、救急医療体制の確保、防災時の物資輸送等あらゆる局面で重要な役割を持っています。しかしながら、道路の整備水準が比較的高い都市部と比べて地方は未だ低い状況であり、早期の事業促進が強く望まれるところです。特に、寒冷地である我が地方は冬期間、未改良区間が多く路面凍結等により安全な交通確保に支障を来しております。このような状況であるにも拘わらず、総じてマスコミ等の論調は比較的道路整備水準の高い都市部の状況を捉えて道路整備は充足されつつあるとしており、地方の実情を正確に踏まえていない公正さに欠けるものとなっております。

今後の道路整備においては、引き続き地方の道路における実情を十分に把握しながら進めていただくよう要望します。

○道路整備における財源の確保

今年5月に行われた閣議決定により道路特定財源が一般化されることになりましたが、地方における道路整備の状況を勘案の上、相応な道路整備に要する財源を確保し、整備水準を堅持するべきと考えます。

○補助事業における地方負担額の軽減

本町においては財政状況が厳しい状況にある中で、必要性の高い道路は現在整備中ではありますが、今後も十分検討しながら整備を進めていく考えであります。しかし、町の道路網を構成する上でやはり国県道が最も重要な幹線となりますが、事業主体である県の財政状況により事業進捗が十分図れない状況にあります。

町及び県においては事業効果の大きい抜本的な改良事業については、国の補助を受けなければ実施できない状況ですが、その負担額が現状より軽減されれば事業進捗が図れるものと期待されますので、特段の御配慮を要望します。

○維持補修事業における補助事業の拡充

町道の整備が進むに伴い年々その維持管理費が増加し、財政上大きな負担になってきています。このため、我が町では地元住民との協働により、資材を支給する等一部の維持補修事業を実施していますが、今後もこの制度による事業の増大が見込まれています。

維持補修事業においては現在でも相当な規模のものは補助事業により取り組むことは可能ではありますが、今後は身近で小規模な多岐にわたる補修についても補助対象となるよう要望します。なお、このような事業は箇所ごとの細かい資料整理等は事務が繁雑となるためその軽減や工夫が必要と考えます。

○現状及び課題

〔基本的事項〕

- ・本町は福島県の南に位置し、標高３００～５００ｍ程度の起伏の多い山間地帯です。
- ・現在人口は約６，２００人であるが減少傾向が続いており、また、急速な少子高齢化が進んでいます。
- ・産業構造においては、第一次産業が大幅に減少し、第二次、第三次産業が伸びてきています。
- ・財政面においては自主財源に乏しいものの、過疎脱却を目指して起債による事業を積極的に推進しています。このため、公債費等義務的経費の増加に伴い、財政の硬直化が進んでいます。

〔道路関係〕

- ・町内における国県道は約６５ｋｍありますが、町道は約２６０ｋｍの膨大な延長になっています。
- ・基本的な社会資本である道路の整備は必要不可欠ですが、特に、磐越自動車道や国道４９号と結ぶ国道３４９号、浜通りと中通りを結ぶ主要地方道いわき石川線は、極めて重要な路線であり、一部未改良区間がある当該２路線の改良整備促進は緊急の課題となっています。
- ・国道３４９号は住宅密集地を通りその一部は通学路にもなっていますが、物流路線としての役割も大きく大型車の通行が多い状況であります。しかしながら、歩道は片側のみであり、さらに、極めて狭い区間や段差が多い区間等があり、それらの箇所においては歩行者が安全に利用できない状況となっています。
- ・本町唯一の公共交通機関である路線バスについては、地域住民の重要な足として利用されてきましたが、自家用車の普及や人口減少等により利用者の減少が目立ち、町による財政補填が必要な状況となっております。
- ・町内には観光に資する主要な地域資源があり、地元住民を始め町としてもソフト及びハード面から様々な取り組みを行っています。しかしながら、根本的な前提条件であるアクセス道路の未整備区間が多く、観光振興の大きな支障となっています。
- ・大部分が山間部であるため走行条件が厳しい箇所が非常に多く存在しますが、特に、幅員が狭い箇所や縦断勾配が大きい箇所については、冬期間における路面凍結により、速度減少や事故発生等の大きな障害が発生しています。

本町は、豊かな自然環境を生かし、農林業を中心に発展してきました。しかし、近年における社会・経済の構造変化や人びとの価値観の多様化、生活重視などの意識変化等に伴い、新しい時代に対応した、個性的なまちづくりが求められています。

本町では、町の将来像として、具体的に次の５つの柱で示します。

○未来を担う人づくり

自然や歴史・文化を大切にし、また社会の変化に対応できる個性と創造性あふれる豊かな心を持った人づくりをめざします。

○あたたかい心で共に支えあうくらしづくり

少子高齢化が進む中で、安心して生活するための保健・医療・福祉の充実をはじめ、自然環境や生活環境に配慮した、町民が互いに豊かであたたかな心で支えあうくらしづくりをめざします。

○快適でうるおいのあるまちづくり

緑あふれる野山や伝統行事など本町を育んできたかけがえのない自然や歴史文化を大切にしながら、計画的な土地利用によって生活基盤の充実を図り、すべての町民が快適でうるおいのある生活が営めるまちづくりをめざします。

○創造と活力あふれる産業づくり

本町発展の基本となる農林業・地場産業の一層の振興に努めるとともに、広域的視点に立った人・モノ・情報の交流を図り、すべての産業がバランスよく発展する活力に満ちた産業づくりをめざします。

○開かれた行財政を担う体制づくり

地方の時代がはじまり、中央から地方への権限委譲は、地方自治体に、より一層の自主的運営を求めています。町民に開かれた総合的、計画的な行財政運営を今後とも推進し、一層の町民サービスの向上をめざします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

福島県古殿町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・国道３４９号（竹貫田地内）における狭隘区間の改良 ※国道３４９号は町を縦断する最も基幹となる道路の一つですが、当該箇所においては一部区間のみが未改良で狭隘となっており、日常生活や物流及び観光等様々な面において支障となっています。	・円滑で安全な交通確保により総合的に大きな効果が期待できます。 ・山間部の寒冷地のため冬期間は路面凍結時にスリップ事故等が多発していますが、大幅な軽減が見込めます。 ・町の大きな観光資源に成長した「越代のサクラ」においては、大型観光バスが町の北部方面からは幅員狭小により入れず観光振興の支障となっていますが、アクセスの確保により入り込み客のさらなる増大が期待できます。	